

小中の連携を通して、地域と協働 ～ 体験活動を通して ～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
小牧市立 篠岡小学校	篠岡小学校学校運営協議会 平成30年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 2名 2名	篠岡学区地域協議会



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

時代が大きく変化し、将来、社会で求められる人材の育成が必要となってきた。学習指導要領が改訂され、教育内容が変化してきた。そこで、学校に求められるものが高度化し、複雑多様化してきた。地域と学校が協働して子どもたちの豊かな成長を支援していく必要がある。

本地域は、1小1中の学区で児童生徒数は年々減少をしている。しかし、地域の方は「子どもは地域の宝だ」という思いをもっている。そのため、より地域と学校のつながりを太くしていくことで、子どもたちの成長を育むことができる。

目標や目指す姿(学校)

地域・家庭と連携・協働し、子どもの成長を支える学校の
びのび ほのぼの

目標や目指す姿(地域)

誰もが笑顔で活気あふれる篠岡へ 思いをつなごう世代を超えて
はじけるしのっ子！ あふれるスマイル！



篠岡小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自治会関係者(地域の代表) | <input type="checkbox"/> ボランティア団体関係者 |
| <input type="checkbox"/> 地域協議会子ども部会長 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 地域コーディネーター | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者 | など、計 8 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 大学教員 | 年間平均 3 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

学校運営の基本方針を承認していただくために、学校での活動について、疑問等を多く出していただき、実際に学校内の参観や体験等を行っている。コロナ禍でGIGAスクール構想が進み、1人1台タブレットが支給された。学校生活で使用することとなったことに学校運営協議会委員が興味をもたれ、実際に授業の中でどのように使われているのかを教室で体験をした。

また、運営委員からは、それぞれの立場で学校について意見を出すだけでなく、学校運営の中で教職員の困り感を共有して、解決策を模索する時間も取っている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

地域協議会の休日における体験活動などの行事の計画等について、地域協議会子ども部会の会長や地域コーディネーターから議事として提案され、熟議を重ねている。

コロナ禍で中止になっていた活動を進めるにあたって、感染対策と満足できる内容となるように、運営委員から意見が出された。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

地域協議会子ども部会の休日における体験活動として、冬の行事と夏の行事の2つがある。新型コロナウイルスの拡大のため、冬の行事のクリスマス会は、クリスマスツリーを飾り、夏の行事は、今年度、登山となった。中学生はボランティアとして、小学生は親子で参加した。



しのっ子夏山なぞとき登山

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

地域協議会では、役員会のフラワーパーク事業、子ども部会では、昨年度は中止した「しのっ子夏山なぞとき登山」、防災防犯部会による防災訓練を行っている。これらの活動に小学生は親子もしくは友達と参加、中学生はボランティアとして参加している。防災訓練では、中学生が地域の方と避難所を運営し、そこに小学生が避難をしていくということも行った。(コロナ禍のため2年間中止をしている)各活動では、市の支え合い協働推進課に支援をもらい、小・中学生と地域の方との協働、学校では体験できない経験をさせてもらっている。計画・実施にあたっては、地域コーディネーターが学校運営協議会と地域協議会をつなぐ役割を担い、一体となって取り組めるようにしている。

取組

成果・効果

令和元年度の終わりに学校が休校になり、コロナ禍となった。人が集まれず、学校に保護者や地域の方が来てもらう機会がなくなった。学校運営協議会では「学校のことがよくわからない」という声が上がリ、ホームページや地域への回覧で情報を発信していたが、行事を実施し、学校に来てもらうことで学校や地域の実情が分かり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの成長を支援できると感じた。できる範囲で、地域コーディネーターが学校運営協議会や地域協議会での活動を進めていくことで、学校の状況が保護者や地域に伝わっていく。学校評価でも保護者アンケートで「学校は家庭・地域と連携・協力していますか」という問いに「そう思う」が令和元年度は36%が令和2年度は29%と低下したが、令和3年度は43%となっていることから、学校と地域とのつながりは回復してきている。地域の方から、子どもたちが朝、元気に挨拶してくれるという声もよく聞くようになった。

今後は、地域とのつながりを大切し、協働して子どもたちの成長を支えていけるように活動の工夫をしていかなければいけない。また、小学生・中学生の地域での役割も考えつつ、小中の連携のあり方を模索していきたい。